認定／特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN　Newsletter　2022.4.30 発行

IV-NEWS

Vol. 44

もくじ

- フアパン県の桜 ……P.2
- 奨学金事業報告 ……P.3
- ありがとう。藤田迪江様へ思いを寄せて…P.4
- アクセサリーのうしろ側　アクセサリー販売に向けて、SNS 利用拡大のお知らせ……P.5
- 幸子のラオスだより ……P.6･7
- IV-JAPAN 顧問、参与紹介……P.7
- お知らせ、寄付者一覧 ……P.8

表紙写真：
ラオス木工･家具製作トレーニングの様子。ラオス職業教育機関のチャンタチョン先生が、地方の職業教育校の木工科教員に家具製作指導をしました。チャンタチョン先生は、IV-JAPAN の実施した木工トレーニングで日本人木工専門家から指導を受けるなど、日本の木工技術を身につけました。

1994 年から 10 人くらいの歴代の日本大使や夫人とお付き合いをいただき、特に印象深いのは女性で初めてのラオス大使で、当時は世界に 3 人しか女性大使は居ませんでした。横田順子大使はラオ・タイ語もお上手で、中でも 2013 年 1 月の賀詞交換会では事故のため車いすで参加したのですが、公邸からお庭に降りる階段で大使自ら車いすを持ってくださって大変恐縮しました。業績も著しく、日本企業の進出が一挙に増加しました。

フアパン県の桜

横田　順子　顧問（元駐ラオス日本大使）

2010年9月から2013年10月の間、ラオスに大使として在勤していました。3年間の間に色々なエピソードがありましたが、一番印象深い桜のエピソードについてお話しします。

今年も日本全国で桜が開花しましたが、ラオスのフアパン県のサクラ公園の桜も2月に満開の花をつけたようです。そもそもラオスに桜はいつからあったのか。日本人の桜愛は強烈なものがあり、世界中に桜を植樹する試みはこれまでも多くの国で行われてきました。ラオスにおいても NGO グリーンフォーラムによる圃場での試験植樹が2012年からあり、2013年には沖縄ラオス友好協会、アジアの障害者を支援する会（ADDP）などがフアパン県での植樹に着手しています。

私自身も2013年1月、ラオス政府の招きで他の外交団とともにラオス北部フアパン県ビエンサイ郡にある山の洞窟群を訪れたことをきっかけにフアパン県に桜を植樹することを考えた一人です。その洞窟群はインドシナ戦争当時に抗米闘争の拠点となった所で、抗米闘争のリーダー達が洞窟の中で作戦会議をする一方、家族も暮らし、出産や子供への教育も洞窟の中で行われたそうです。その洞窟を出て麓に下りた折、農家の庭に梅のような花が咲いていました。それを見て、「梅が咲くほどの寒さがあれば、桜もきっと根付くだろう」と嬉しい思いに駆られたことを覚えています。というのもラオスに赴任する前に在勤したタイの北部チェンマイでもかなり昔にチェンマイ市内に桜の植樹が試みられましたが、気温が高すぎて市内の桜は根付かず死に絶えたと聞いていたからです。寒さを経ないと桜は咲きません。

そして、気候的に適していることに加え、かっては戦争の拠点であったという歴史的な場所に桜が満開に咲き誇り、人々の憩いの場所となればという思いもフアパン県での桜植樹推進を後押ししました。

早速、フアパン県出身の当時のパンカム教育相（現首相）、トンルン外相（現国家主席）及びトンシン首相に桜植樹構想を説明したところ、いずれも即座に賛同してくださり、特にパンカム教育相はフアパン県知事への根回しから、場所選定の現地視察まで手配し、同行してくださったのです。2013年6月に13本の苗木を植樹しました。私の離任後も多くの方々や団体が桜の植樹を進められ、2016年2月にはラオス日本友好親善サクラ公園がフアパン県ビエンサイ郡に整備されました。

現在では、桜の花を見ようとラオスの人々が集う憩いの場所となっていると聞き、桜の植樹を進められた関係者の皆様に感謝の思いで一杯です。

チャンパー山の民奨学生の現況について

2021年度もチャンパー山の民奨学金にご寄付をいただきありがとうございました。
みなさまが支援をしている奨学生は、訓練生活中に COVID-19 の影響によりロックダウンや隔離生活を強いられることもありました。しかし、オンラインでの授業を取り入れ、学びを止めない環境を作ることにより、無事にホスピタリティ・介護の専門的な知識と技術を得ることができ、それをもとに新たな道へ進もうとしています。貧困により教育を受けられなかった若者たちでも手に職を持つことで自立できるようになります。奨学金は、貧困家庭の若者が職業訓練校に参加するための一押しになりました。 皆様からいただいた山の民奨学金で研修を修了した1期生15名、2期生22名、3期生20名、計57名の現在について、報告いたします。

【コロナ禍の研修の様子・オンラインで研修を継続】

2021 年 4 月、ラオス正月期間中からそれまでなかった COVID-19 の市中感染が始まり、各種学校に閉鎖令が出されました。学校閉鎖令と同時に人の移動も禁止されたので訓練生は寮に閉じ込められた状態となってしまいました。そのため Zoom を利用したオンライン授業に取り組みました。6 月下旬から学校閉鎖令が解除され、すぐに対面授業に戻しました。郡病院の関係者が近くにいた事もあり、奨学生はワクチンも2回打つことができました。しかし、9 月にはまたロックダウン措置の強化を受けてオンライン授業となりました。11 月からは、政府の方針で教室を密にしないで学校を再開していい、とされたので一部はオンラインで、一部は対面で研修を行うハイブリッドオンライン研修を行いました。

【対面による研修の様子】

ホテルに来られる高齢者の方や障害をお持ちの方にも温かいおもてなしができるように介護の研修を行いました。介護ベッドから車椅子に乗せてトイレへ行って帰ってくるまでの介助、介護ベッドでの食事、洗髪、排泄、体拭きの介助、車椅子での散策介助、基礎的な体調管理(検温、血圧測定)、ケガの応急措置、心肺蘇生など様々な介護技術の習得を行いました。

研修を修了した奨学生の進路先
ホテルスタッフ、 家庭内介護士 ウェイトレス、
ハウスキーパー 、進学各種学校、
オンラインショップ 、家業伝い など

カノック奨学金支援者からのメッセージ

「これからも･･･ずっと」　　宗像邦司 様　　福島県田村市より

IV－JAPANになる前の国際ボランティアの会の時代から代表の冨永幸子さんとは親交があり、スタディーツアーなどにも参加させていただき今でも当時の参加者の方々とは年賀状のやりとりや年に何度か連絡を取っています。また、カノック奨学金については1990年頃でしたか私の小遣いでタイの勉強をしたくても学校にいけない子供たちのために少しでも役立ちたいという思いで小銭を集めて年に一度事務局に送付させていただいております。いつもお礼のお手紙を拝見させていただくと胸が熱くなる思いです。
私は小さなお手伝いしかできませんが、カノック奨学金を継続してやっていこうと思います。これからも、ずっとIV－JAPANを応援していきます。

※3 月 16 日の地震にて宗像様が住む福島県田村市はまた被害を受けました。大きな揺れを感じ11年前の地震の記憶が甦り「またか･･･」と恐怖だったと話してくださいました。まだ地震の影響は続いています。大変なご状況下にも関わらずメッセージを書いて下さり心より感謝申し上げます。　　IV-JAPAN 事務局

ありがとう。藤田迪江様へ思いを寄せて・・・

1990 年代初頭に藤田迪枝さんと知り合い、私がタイ・ラオス・ミャンマーに行くたびに一緒に旅をしました。指圧師の技術を生かし、タイ・ランプーンの王女様、1995 年に駐ラオス日本大使にも施術をしたり、一時帰国のたびにおいしい和食を作ってリュックに背負って、事務所でふるまってくれました。皆に好かれ慕われました。テニスや茶道も優れていて、ボランティア精神旺盛で、バンサトリーと名付けて現地の手工芸品を販売して毎年 10 万円程度の収益をご寄付くださいました。一番親しい友人を 2 月 21 日突然亡くしショックです。ご冥福をお祈りいたします。冨永幸子

追悼　藤田迪枝さん

毎年5月のGW「市民の森」で開催する「花と緑の祭典」でIV活動の写真、イラストなど展示します。藤田さんから「キャンプしましょう」のお声掛があります。その声が聴けないのが寂しい限りです。合掌＊キャンプとは朝採れの野菜をブース裏で調理すること。

佐復正雄

藤田さんにお会いしたのは、代々木でのタイスタディツアーの事前研修の時でした。その後もラオス、大宮盆栽村、市民の森、日比谷公園等でのエネルギッシュな後ろ姿を追いかけました。昨年末野菜をお持ちした時はお元気なお姿でした。突然のお知らせに今も信じられません。ご主人様のお心遣いにより最後のお別れをさせていただき感謝しております。合掌

小沢秋子

妙に波長が合いましたね。いただくものの方が多く、帳尻合わせできないうちにサヨナラとは…、藤田さんらしいですが。マロングラッセは絶品でした。我が家の駄栗とは思えなかったです。“褒められ、叱られ”の私の20年。いつも一本気な藤田さんにIVの神髄を見ていました。ありがとうございました.

池田敏秀

久しくお会いしていないと思ったら、今度はずいぶん遠い所に行ってしまったのですね。いつも美味しい手料理でみんなを喜ばせてくださったり、時には厳しく時には子供のような笑顔で励ましてくださった「みんなのおふくろ」藤田様。どうぞゆっくり見守っていてくださいね。合掌

片山純子

藤田さんを偲んで

藤田さんとの出会いは、2003 年十一月、スタディーツアー初参加の時でした。IV の活動やラオス事、今までの体験談等を聞かせて頂き私は良い刺激を受けました。その後お会する度に「活動は頑張り過ぎないで長く続けてね」の言葉、今も守ってます。包容力のある素敵な方でした

斎藤加代

昨夏、コロナ禍にも拘らずわざわざ大宮駅までいらして下さり、藤田さん手作りの食品を頂きました。またお会いする約束もしました。その後、突然の訃報に絶句するしかありませんでした。ほぼ IV-JAPAN 創立時からの長きに渡り大変お世話になりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

井藤尚子

藤田迪江様ご逝去を慎み心からお悔やみ申し上げます。突然のお別れになりまだ信じられません。お元気な姿しか思い出されません。IV-JAPAN ラオスなどの活動をご一緒させていただきたくさんの事が思い出されます。日本の IV-JAPAN 事務所の集会にはいつも手作りのお料理をたくさん作って持ってきてくださいました。本当に埼玉の肝っ玉母さんのようなかたでした。色々思い出され悲しみが堪えません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

飯田昌美

二十年ほど前のスタディツアーで御一緒させて頂き、その後も、国内活動のリーダー的存在である藤田さんからラオスのことをたくさん教わりました。藤田さんの姿は、托鉢僧に喜捨するラオスの女性の姿にだぶります。これからも、天国の藤田さんとつながり一歩でも成長していきたいと思っております。

金野喜久子

IV-JAPAN の活動は勿論地域のお年寄りの福利厚生に努める等、貴女は多方面の活動に精を出されていましたね。自分の考えをはっきりと表明し、冨永代表や私達をあっと言わせることもありました。今、ウクライナの惨状に驚愕しつつ、他国に避難した子供達のメンタルケアや長期にわたる学業の支援等何が出来るのか考える毎日です。藤田さん、天国から見守って下さいね。

吉野貴美子

アクセサリーのうしろ側

ラオスでひと際目立つのが、色鮮やかなモン族の刺繍や、おしゃれのアクセントにもなる小物や雑貨ではないでしょうか。

ラオスとタイの国境近くにある「ラオス女性障害支援センター」では、障害のある女性の自立支援としてアクセサリー作りなどに取り組んでいます。そこで、IV-JAPAN は、彼女たちの自立を応援すべく、一つ一つ手作業で造られたアクセサリーなどを日本で紹介しようと、販売計画を進めています。

今回は、アクセサリー販売に向けて、取り組みを進めて下さっている斎藤理事と安田理事に販売に向けての後ろ側のストーリーと今後の展望を語っていただきました。アクセサリーを造った人と買った人が幸せな気持ちになれる、そんな繋がりのある商品になってくれることを願ってやみません。

アクセサリーのサンプル。
IV-JAPAN ホームページの QR コードを台紙にプリントしました。

日本国内でアクセサリーを購入いただくことで IV-JAPAN の運営寄付になり、さらには日本に居ながらラオスの障害者支援にも繋がる。商品の価値だけではない「付加価値」によって買ってくださる方も笑顔になる、そのような活動をこれから進めて行きたいと思っています。With コロナとして今後も継続していくために、調達する手段やネットでの販売方法を模索して行きたいです。

（理事：安田昌美）

冨永代表の友人が運営している「ラオス女性障害者センター」では共同生活をしながら手作り製品の販売をしているが、コロナ禍で売上が無く困窮しているとの事。国内イベント用に製品を購入して支援出来ないかと考えました。何点かのアクセサリーのサンプルを手に入れて安田理事とチェック。クオリティが高かったので代表に依頼して数種類を発注しました。代表が帰国時に持ち帰ってくれます。

（理事：斎藤加代）

Facebook.com/IvJapan

Instagram IVJAPANMIHASHI

QR コードを読んで
お友達になってください！

twitter
@IVJAPANHQ

今までも、これからも。IV-JAPAN の活動をもっと知っていただきたい。

SNS を利用した情報発信、PR 活動を拡大します。IV-JAPAN のニュースや、現地事業の様子、国内イベントのお知らせなどお届けします。

ご夫婦で、ご家族で、お孫さんと一緒に SNS を使って、IV-JAPAN をぜひ応援してください。

幸子のラオスだより 「ラオスの川イルカ絶滅」

ラオスのメコン川に生息していた最後の１頭のイラワジ・イルカが 2 月 15 日に亡くなったと報道されました。イラワジ・イルカは和名を「カワゴンドウ」＝河巨頭＝とも呼ばれ、メコン川、ミャンマーのイラワジ川、インドネシアのマハカム川など東南アジアの河川の河口や海岸近くの海域に生息する小さなイルカで、大きくても体長は 2.5 メートルの淡水生物です。私も 20 数年くらい前の 1997 年にラオスに来た頃は物見遊山でイルカを見に行きました。ラオス南部のカンボジヤの国境近くのメコン川に泳いでいるとのことで、2～3 人乗りの細長い小舟をチャーターして、エンジンを切り、炎天下、静かに待つこと 1 時間、運よく 3~4 頭のイルカが川面に顔を出し、見ることができました。イルカは水中にいられるのは普段は 30~60 秒、長くて 12 分まで潜っていられます。チャンパサック県のコーンパペンの滝から下流のカンボジヤにかけておよそ１９０Kmの水深 10~15mに生息していました。

1997 年の調査ではラオス・カンボジヤでおよそ 200 頭の川イルカの生存が確認されていましたが、2009 年にはすでに WWF（旧称：世界自然保護基金）は川の汚染で絶滅寸前と警告を発して、生存しているのはラオス・カンボジヤ合わせて 64 頭から 76 頭と推定していました。その年の WWF は過去 2003 年から 2009 年に回収した 50 頭のイルカの死体を調べ、中から殺虫剤、水銀等の有毒化学物質を検出して、メコン川の環境変化でイルカが生きずらくなっていることが分かりました。水力発電所の建設で餌となる魚の減少や、違法なジルネットと呼ばれる刺し網（魚の通り道に帯状の網を仕掛けて大量に魚を取る）を使った漁法や電気や爆薬を使う漁業などで餌の魚が少なくなるという不幸も原因として考えられています。2016 年 12 月に WWF はラオス側に 3 頭のイルカの生存を確認し、絶滅の警告を発していました。ちなみに 2017 年には国際自然保護連合がイラワジイルカを「絶滅危惧種」に指定しました。2021 年 4 月に 3 頭の内メスのイルカが亡くなり、6 月にもう 1 頭のメスが亡くなり、2022 年 2 月 15 日に最後のオスのイルカ（推定 20 歳以上）が亡くなり、尾びれには魚の網が絡まっていたそうです。

イルカの平均寿命は 30 歳とのことですが、ラオスのイルカは絶滅してしまいました。イルカのいる場所はその地域の川の生態系と健康がすぐれていて、工業・農業・生活汚水を川に流さないで、きれいな水を保つことがイルカのみならず、川とともに生活している人間にとっても大事なことです。
ラオスの民謡で、「メコン川」という歌があります。母なる川という意味ですが、歌詞は

※写真は WWF よりご提供

～メコン川はたくさんの恵みを与えてくれる、きれいな水、
たくさんの魚、涼しい風、米や野菜も作れる、水浴びもできる～

メコン川はラオスの人々の生活にとってとっても大事な大事な川なのです。

ＩＶ-ＪＡＰＡＮ　顧問・参与をご紹介します

顧問

上田　義朗　様
流通科学大学教授
外国人材雇用適正化協会代表理事
日本ベトナム経済交流センター副理事長

豊田　利久　様
神戸大学名誉教授

横田　順子　様
元駐ラオス日本大使

参与

伊藤　裕子　様
元文教学院大教授

大野　宏江　様
元ガールスカウトリーダー

福永　文代　様
ウィル･ライオンズクラブ会員

吉野　貴美子　様
社団法人青少年育成国民会議
元事務局長

いつもご寄付ありがとうございます。寄付者をご紹介いたします

2021 年 12 月 1 日～2022 年 3 月 31 日　※敬称略

チャンパー山の民奨学金　寄付者　1 口 60,000 円

亀田誠一郎 1 口、早坂健治 1 口、矢口美恵子 1 口

カノック奨学金　寄付者　1 口 12,000 円

根橋淑江(1 口)、河島一郎(1 口)、川畑康子(1 口)、横田順子(1 口)、中澤達夫(1 口)　西条喜子(1 口)、宗像邦司(1 口)、松茂良米子(2 口)、奈良伊世(1 口)、塩川悠子(1 口)、蛭間愛子(1 口)、伊東慶子(1 口)、片山純子(1 口)、黒田歩(1 口)、嶋美喜子(4 口)、 大野宏江(3 口)、上原望 (1 口)、込山まち子(1 口)、小林佳代子(1 口)、廣田知彦(1 口)、五十嵐香苗 (1 口) 、 ガールスカウト千葉県第 45 団(1 口)、大橋國江(2 口)、福永文代(1 口)、

国際協力費・運営費　寄付者　※2,000 円未満は省略させて頂きます

小田千恵子(5,000 円) 、林千根(5,000 円)、 高橋賢一(3,000 円)、 田中誠吾(3,000 円)、 斎藤友美恵 (3,000 円)、中澤達夫(3,000 円)、 上田義朗(3,000 円)、宮内芳子(20,000 円) 、織田佐由子(12,000 円) 、稲葉尚子(3,000 円)、 一般財団法人麗澤海外開発協会(50,000 円)、 風間和江(10,000 円)、蛭間愛子(3,000 円) 、原國倍子(3,000 円)、 片山純子(3,000 円)、 陶守倶行(10,000 円) 、伊藤弘美(3,000 円)、(有) イチカワ北海食品(10,000 円)、 大野宏江(4,000 円) 込山まち子(8,000 円)、 古谷　朋子(3,000 円)、 株式会社イヨベ工芸社　代表取締役　五百部喜作(10,000 円) 、小林佳代子(3,000 円) 、森田豊則(5,000 円)、 五十嵐香苗(3,000 円) 、矢口美恵子(40,000 円)、渡久地　澄子(200,000 円)

※前号にて**筒井美花様（3,000 円）**のお名前の記載漏れがございました。この場を借りてお詫び申し上げます。

奨学金・運営費のご寄付にご協力お願いいたします

●カノック奨学金、国際協力費・運営費、チャンパー山の民奨学金のドナー様を募集しています。

①カノック奨学金ドナー　　12,000 円（1 口）以上
②国際協力費・運営費ドナー　個人:3,000 円以上／団体・法人:10,000 円以上
③チャンパー山の民奨学金　　60,000 円（1 口）以上

●申込方法　※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。

郵便振替　：（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　普通預金　口座番号:5038052
　　名義人：（特非）国際協力 NGO・IV－JAPAN

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101
TEL/FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
https://iv-japan.org/

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientiane, Lao PDR
TEL/FAX : +856-21-316047
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

アカウンタービリティ
セルフチェックマーク